



六月中旬の暑さだそうです。

暖房を入れていたかと思ったら冷房を入れないといけない程の寒暖差。

朝と昼との温度差が10℃近くあるなど身体の対応が追いつきません。

これから暑くなる季節を乗り切るため、知恵を授かりたいものです。

第236回ギャラリー展は、織部・やきもの展を開催します。

織部焼は美濃方面で焼かれた日本の焼き物です。

織部焼は、茶人・千利休（1522～1591）の弟子の一人、古田織部（1544～1615）が考案し、焼かせたものといわれています。

室町時代の凜とした中国作品から、桃山時代の利休・侘びさびの作品へ。

そして、へうげ物といわれる故意に歪め、派手な絵つけに緑釉を施したり、自由奔放で動的なこれまでにない斬新な織部作品を創作しました。

その後、江戸初期の小堀遠州（1579～1647）がさらに新しく綺麗さびの室町の古典回帰の創意工夫をします。

古田織部の織部焼という斬新な作品群は現在の陶芸家に連綿と引き継がれています。

奔放で動的な器。こんなものありと目玉を丸くされて結構。日本人の美意識の奥深さに身をもって感じていただければ幸いです。